

令和6年度 学校運営協議会 第1回会議 議事録

岡山県立総社高等学校

日時：令和6年6月7日（金）14：35～17：00

場所：岡山県立総社高等学校 合併教室

出席者：浅海（総社西中学校）、梅田（総社市総合政策部）、小林（総社東中学校代理）、貝原（総社高校PTA）、久山（総社市教育委員会）、笹沼（新興工業株式会社）、清水（総社商工会議所）、高杉（総社小学校）、高山（一般社団法人ON-DO）、長木（川崎医療福祉大学）、横田（株式会社ベネッセコーポレーション）、吉岡（総社市社会福祉協議会）、豊田（総社高等学校）、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教務課長、生徒課長、進路指導課長、1年主任、2年主任、3年主任、家政科長

【第1部】

1 開会・主旨説明（総社高校校長）

令和4年度に立ち上げた地域学校協働活動推進協議会を元に、地域を核とした教育をさらに充実させるため、本年度よりコミュニティ・スクールに移行する。

いわゆるコミュニティ・スクールは、地域とともにある学校として、地域が当事者として学校運営に参画するという仕組みであり、学校運営に関する評価・承認・意見を言える場になっている。本校はテーマ型コミュニティ・スクールとして、学校と地域が目標や課題を共有し、解決に向け協議を進めていきたい。

具体的には、本校の課題は、地域からの信頼をさらに高めていくという点にある。そのためには「見えない学力（社会性など）」を高め、地域で活躍できる生徒を目指す必要がある。一方、地域の課題としては、地方創生、地域を支える人材育成が挙げられる。この共通項を多く持つ両者の課題について、学校と地域とが協働して解決することをテーマとしている。

これからの時代を担う高校生が、将来地域の持続可能な社会の担い手として地方創生に資することを実現するために、協働して「見えない学力」の育成を行って行きたい。大学は全国に散らばっても、最終的にはこちらに戻ってきてこちらを支える人材を作ることを目指したい。

2 委嘱状交付

3 会長・副会長選出

委員の互選により会長として梅田委員、副会長として豊田委員を選出。

4 協議

（1）令和6年度学校経営目標（校長より説明）

スクールポリシーに基づいた令和6年度学校経営目標・計画について説明。開かれた学校を目指して「総合的な探究の時間」の充実を図る。令和4年度から普通科を「単位制」に移行。習熟度別少人数授業を行って学力の伸長を図る。家政科は非常に高い技能を持って、全国でも活躍している。普通科は本年度、単位制の第一期生が3年になった。どれぐらいの成果が出るか期待している。

（2）令和6年度学校経営目標を達成するための具体的取組（事務局より各担当から説明）

○説明：授業については授業公開を年に2回行い、相互参観を通して授業力を高める。昨年度からオーストラリア海外研修を実施し9名の参加。参加生徒の満足度は非常に高かった。生徒課では学校のルールの改正や総高祭の実施について、生徒が自ら変えていくという仕組みで活動を行っている。その活動を支えながら実現していきたい。進路指導では入試の多様化により

「見えない学力」で入試を突破していくことも大変重要視されてきている。探究の取組や面談を通して進路の方策を探っていく。家政科では多くのコンクールやコンテストに応募し全国や県の最優秀など数々の賞を受賞できた。今年度もさらなる活性化に努める。1年生は地域と連携した探究学習が始まり、今年度は地域防災、地域の人材に関するマップ作成、ふるさと納税の返礼品を考える、の3つのミッションを実施。地域の協力が必須。2年生は何かやりたいというパワーを持っている生徒が多い。ボランティアにも積極的に参加。様々な経験を通し一人一人の能力を伸ばしたい。3年生は1年次から3教科習熟度別授業を実施し、個々のレベルに合った授業により、最後まで諦めず前向きに取り組んでいこうという姿勢が見られる。きめ細かな情報共有や面談を通して、生徒一人一人の進路実現をさせたい。広報推進室では顔の見える広報を心がけ、直接中学校を訪問している。1人でも多くの教員が中学校に行き、本校の生徒がどのように学んできたかなどを知るようにしている。

○質問・意見

委員A：近年の総社高校の取り組みで子どもたちをしっかりと伸ばしてくださっているなど思っている。習熟度別授業についてだが、これは伸ばすのは学力だけでなく、意欲を含めて伸ばすための学校としての効果があると考えているか。また、これを始めた前と後の子どもの学力や意欲の変容はどうか。

⇒(事務局) 英語が最も早くに習熟度を始めた。アンケートで希望に沿ってクラス分けをしている。その希望をもとに上に上げるという方向で声かけをするという形でやっている。実態と照らし合わせてやっている。クラスは固定ではなく、定期考査など区切りのいいところで声かけ等をしている。発展クラスはプラスアルファができ、基礎・標準クラスは自分のペースで進めていけることができるので、非常に満足度は高い。またそれぞれの教員で生徒の情報を共有し、全体を見ながら進めている。実際に学力の伸びに反映されている。

委員B：教育委員会にも勤め、その中で学校を見ているが、非常に充実している。特に現在は同窓会等で説明を聞き画期的な取組だと思う。自身が数年前PTA会長をした時に、中学区制度に変わった。倉敷地区と戦わないといけなくなった。総高通信という広報誌を中学校の方に流した。小学校・中学校、また、その親に知っていただくというのが良い。やはり直接教員が行って話した方が良い。

5 委員の皆様から

委員C：地域を盛り上げていくのは地元の総社高校。探究学習の方の持って行き方が良いと思う。探究活動を通して自分で表現する力、コミュニケーション能力を上げるということが必要になってくるので、連携していきたいと思う。

委員D：学校と接する機会がなく、今日色々と話が聞け、すごく頑張ってもらえるなどというのを感じることができた。行政と一緒に何かやっていけることを皆さんと考えていきたいと思っている。

委員E：探究の発表やポスターを見て、ぜひ中学生にも見せてやりたいと思った。日本語だけでなく英語でもプレゼンするとのことなので、そういう高校生の姿を中学生が見ることにより、近くの目標というものが持てると思う。

委員F：保護者として保護者の輪を広げながら学校とこういう協議会の中で協力していきたいと思っている。

委員A：学力差が相当あると思う。その中で習熟度別授業も活用し一人一人が目的意識や目標を持って学校生活を送れるようにしてほしい。いろいろな学校の取り組みが聞けて良かった。

委員G：総社高校を卒業して、地元で経営者をしている。当時ここで本当にお世話になり、その時の経験が私の今の会社経営にも息づいている。今でも弊社の中では総高を卒業して、それから大学院行って戻ってきて活躍している子もいる。つい先ほど、我々の面談を受けたばかりの卒業生の方もいらっしゃる。企業しても、こちらを卒業した生徒が将来的に地域に携わって自己の成長を感じ、地域貢献できたと感じられる企業を我々は作らないといけない。こういった形で引き続き皆様と協力し、総社高校の発展に役立ちたいと思っている。

委員H：5年前から連携していて、総社高校の先生方が10名以上授業参観してくれている。総高の先生の授業力向上ということで、参観だけではなくコメントを寄せてくれ、我々の小学校の教員の方も非常に励みになっている。小学校2年生が町探検をしているが、総社高校にも来てくださいと声をかけてくださり、小学生に説明してくださっている。やはり連携というのはウィンウィンの関係で続かなければいけないと思っている。

委員I：私自身、地域学校連携に携わってきて自分自身も大変勉強になっている。この学校運営協議会になって小学校や中学校の先生が参加されているというのは大変貴重だと思う。高校生は学校の中の閉じられた探究活動になると、どうしても「これぐらいでいいか」と思うところがあるが、年下の年代にプレゼンテーションしていくという機会を持てるようになれば、さらに遠くに目標を設定していくことができるのではないかと考えている。

委員J：高校のグローバル・国際交流という関係で来させていただいていると思う。高校生、大学生と一緒にイベントをするきっかけを7月ぐらいから準備していて、その中に企画から高校生も入っていただくと考えており、自身がコーディネートをする事になったので、総社高校生で興味のある方がいたらリードしていくので相談ください。

委員K：前校長の時から、この歩みを一緒にずっと過ごしていた。計画の発表をご覧いただいたとおり、先生方にすごく力が入っていて元気な計画の発表になってきた。この会もぶっちゃけた感じでわいわい言いながら進めていけるようになったらよいなと思っている。

【第2部】

6 生徒によるプレゼンテーション

- (1) 世界銀行防災グローバルフォーラム 高校生防災サミット
総社高校の「防災への取組」 6月20日：兵庫県姫路市にて発表
- (2) 岡山大学主催E-PBL AWARD ZERO2023 「差別と区別」 チームSOKO
グッドプレゼンテーション賞 受賞

7 事務連絡

今年度の予定について、学校運営協議会第2回会議は11月5日（火）、第3回会議は1月31日（金）に開催予定

8 閉会

